



(左上から時計回りに) 時雨螺鈿鞍 東京・永青文庫 [I・II期]、
風神雷神図屏風(部分) 俵屋宗達筆 京都・建仁寺 [I・II期]、金印 福岡市東区志賀島出土 福岡市博物館 [III期]、
青磁鳳凰耳花入 銘 万声 大阪・和泉市久保惣記念美術館 [I・II期]、土偶(縄文の女神) 山形県西ノ前遺跡出土 山形県(山形県立博物館保管) [I・II期]、
伝源頼朝像(部分) 京都・神護寺 [III・IV期] ※以上すべて国宝

縄文国宝自治体首長懇談会



新潟県十日町市 関口 芳史 市長
前文化庁長官 青柳 正規 氏
長野県茅野市 柳平千代一 市長
山形県舟形町 森 富広 町長
(左から)

これは、縄文時代の国宝出土地である3自治体が連携をしながら2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムなども活用し、新しいまちづくりを全国に発信していきたいという想いから実現したものです。各首長は、これまでの取り組み状況や今後のまちづくりに関する計画や夢について意見を交わし、森町長の「縄文文化を地域に伝え、世界に発信していきたい考え」や「国宝縄文の女神を舟形町に帰らせてあげたい想い」に、両市長からも熱いエールを送っていただきました。

懇談会には、ゲストとして前文化庁長官の青柳正規氏が特別参加され、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした、国宝や縄文文化を活用したまちづくりに関する提言や助言をいただきました。

「自治体間での更なるネットワークづくりの必要性、教育や産業も巻き込んだサミットの開催、巡回展などもっとダイナミックな施策を展開してはどうか。」という提言もあり、今後の更なる連携強化を確認し懇談会を閉じました。

今回の展示を記念し、京都市のANAクラウンプラザホテル京都で、山形県舟形町、長野県茅野市、新潟県十日町市の首長による懇談会が開催されました。

縄文文化を地域に伝え 世界に発信

10月3日、国宝に指定された美術工芸品のうち4分の1近くにあたる210件を集めた特別展覧会「国宝」が、京都国立博物館で開幕しました。絵画や彫刻、工芸、書跡などの名品が一堂に会するとあって、開場前に約370名が行列を作り、多くの来場者でにぎわいました。また、「縄文の女神」を含む縄文時代の国宝6点のうち、3市町から出土した4点の縄文国宝が初めて一堂に展示されています。11月26日まで開催される予定です。(縄文の女神、火焰型土器の展示は10月29日まで)

▼問い合わせ／京都国立博物館
075(525)2473(テレホンサービス)

縄文国宝

火焰型土器 (新潟県笹山遺跡出土)
縄文のビーナス (長野県棚畑遺跡出土)
仮面の女神 (長野県中ツ原遺跡出土)
縄文の女神 (山形県西ノ前遺跡出土)
(左から)

